

# カンボジアにおける学校歯科・内科健康診断のモデル実施

## —2019年度医療技術等国際展開支援事業—

清水 裕子<sup>1</sup>、峠 哲男<sup>1</sup>、三宅 実<sup>1</sup>、宮崎 亮<sup>1</sup>、  
野々村 秀明<sup>2</sup>、岩本 優子<sup>3</sup>、宮崎 彩<sup>4</sup>、野村 美加<sup>5</sup>

<sup>1</sup>香川大学医学部、<sup>2</sup>サンインターナショナルクリニック、<sup>3</sup>広島大学歯学部、  
<sup>4</sup>徳島大学大学院小児歯科、<sup>5</sup>香川大学農学部

A Model for School Dental Health Examination and Physical Examination in Cambodia  
—Bureau of international health cooperation in 2019—

Hiroko SHIMIZU<sup>1</sup>, Tetsuo TOGE<sup>1</sup>, Minoru MIYAKE<sup>1</sup>, Ryo MIYAZAKI<sup>1</sup>,  
Hideaki NONOMURA<sup>2</sup>, Yuko IWAMOTO<sup>3</sup>, Aya MIYAZAKI<sup>4</sup>, Mika NOMURA<sup>5</sup>

<sup>1</sup>Faculty of Medicine, Kagawa University, <sup>2</sup>Sun International Clinic in Cambodia,

<sup>3</sup>School of Dentistry, <sup>4</sup>Graduate School of Oral Sciences, Tokushima University,

<sup>5</sup>Faculty of Agriculture, Kagawa University

### 要 旨

我々は、JICA草の根技術協力事業のカンボジアカンダルスタン郡の衛生教育改善のために学校保健室を中心とした学校モデルの構築に取り組んでいるが「保健室体制作り」を強化する目的で、2019年11月25日から29日には歯科健診班が渡航し、12月2日から5日は内科健診班が渡航し学校健康診断のモデル事業を実施した。

今回の渡航では、医療技術等国際展開推進事業の支援により、日本の歯科・内科医療関係者によるカンボジア小学校健康診断研修を実施することが可能になった。歯科健診班および内科健診班ともに、各1日目にカンボジア健康科学大学にて歯科学校健診方法あるいは内科学校健診方法のWorkshopを実施した。各2日目には、プノンペン市内の私立ウエストライン小学校児童50名（5, 6年生）を対象に、各3日目にはプノンペン郊外のカンダルスタン郡小学校児童65名（5, 6年生）を対象に歯科健診と内科健診を実施した。2地域の小学校に通う児童は、カンボジア、プノンペン市内の比較的裕福な家庭の児童と典型的な田舎の家庭の児童であるため、今回の健康診断集計結果は、今後のカンボジアの学校保健政策への提言も視野にいった成果が得られると期待できる。

### キーワード

カンボジア、カンダルスタン郡、歯科健診、内科健診、保健室体制作り、カンボジア健康科学大学

## 1 はじめに

JICA草の根技術協力事業「カンダルスタン郡の衛生教育改善のための学校保健体制の構築プロジェクト」が2017年から3年間採択され、学校保健室を中心とした学校モデルの構築に取り組んだ。これまでの事業実施内容については香川大学国際オフィスジャーナル2017年第9号

(29-40頁) および2018年第10号(55-66頁)にて報告した。しかし、JICA草の根経費が医師、看護師の医療技術移転を担保できないことから、新たに医療技術等国際展開推進事業(以下、医療技術事業)を獲得し実施することとなった。

本稿では、2019年11月25日から29日に歯科健診を、12月2日から5日に内科健診を実施し「保健体制作り」を強化することを目的に「カンボジアにおける学校健康診断のモデル事業」を開催したことについて報告する。ウエストライン小学校の教員は教育熱心でカンボジアの比較的裕福な家庭の子どもが多い。一方、カンダルスタン郡小学校はカンボジアの典型的な田舎の小学校である。2校の小学校児童5,6年生を対象に健康診断を実施した。

歯科健診・内科健診いずれの行程においても初日に、カンボジア保健科学大学(UHS)にて医師、看護師スタッフとWorkshopを実施した。2日目にプノンペン市内のウエストライン小学校児童50名の歯科・内科健診、3日目にプノンペン郊外のカンダルスタン郡ウットンポー小学校の児童65名を対象に歯科・内科健診を実施した。

## II カンボジア健康科学大学(UHS)での学校歯科健診Workshop(2019年11月26日)

実施場所: UHS meeting room, 実施時間: 13:00-14:30

UHS参加者: 15名

Dean, Dr. Jeug Rayfaumith(Dentist), Vice Dean, Dr. Vorn Vutha(Dentist), Dr. Lay Vuthy(Dentist), Dr. Sin Sowatha(Dentist), Dr. Suorn Monika(Dentist), Dr. Kien Samphea(Dentist), Dr. Sao Sopheapra(Dentist), Dr. Uy Sophorn(Dentist), Dr. Chan Borey(Dentist), Dr. Muy Say(Dentist), Dr. Hun Sereyvathana(Dentist), Ns. Soth Sophaorn, Student; Mr. Eng Soponsselamuny, International relations; Mrs. Chea Phalla,

日本側参加者: 10名

香川大学清水裕子看護学教授(プロジェクトマネージャー)、香川大学三宅実口腔外科学教授、宮崎亮歯科医師(香川大学大学院医学研究科)、広島大学岩本優子歯学部助教(小児歯科)、徳島大学宮崎彩歯科医師(小児歯科)、JICA草の根事業; 香川大学農学部野村美加教授, 現地スタッフ; 香川大学増子夕夏現地調整員, NGOウドンハウス; 楠川富子看護師, 通訳; オン・リナ、タイ・ソックヘン

歯科健診Workshop プログラム

司会: 野村 美加、通訳: オン・リナ

開会の挨拶	清水 裕子 教授 Seng Rossamith, 歯学部長	
お土産交換・集合写真		
セミナー	三宅 実 教授	香川大学の紹介 School dental examination training schedule and implementation detail
	宮崎 亮医師・彩医師	日本の学校の歯科検診について Legal basis and method of school health examination in Japan
	岩本 優子 助教	カンボジアの小児の口腔内の現状について Necessity of health examination in Cambodia
	清水 裕子 教授	日本の地方の医療保健の現状
閉会の挨拶	三宅 実 教授	

清水プロジェクトマネージャー（プロマネ）からの挨拶の後、Prof. Seng Rossamith 歯学部長から返礼の挨拶とカンボジア側参加者の紹介が行われた。引き続き清水プロマネから日本側参加者が紹介され、本プロジェクトの趣旨と今回予定している 歯科健診の目的について説明が行われた。お土産交換、集合写真の撮影の後セミナーが開催された。

Workshopは、プログラムの通り、三宅教授、宮崎亮・彩医師、岩本助教から歯科健診の意義、日本の歯科健診について、カンボジアの児童の現状についてセミナーが行われた。質疑応答では、学校歯科健診の費用や、健診後の歯科受診などについて質問があった。歯学部の教員だけでなく看護学の教員も熱心に議論に参加し、これからのカンボジアの学校歯科健診の実施に向けて必要性とその意義を感じる有意義な時間となった。

最後に、清水プロマネから、日本の地方の学校保健室の現状について紹介後、三宅教授の閉会の挨拶によりWorkshopは終了した。



図1 お土産交換

上段左から右へ 香川大学から歯学部長へのギフト贈呈、渡航者から香川の銘品贈呈、UHSからギフトを頂く三宅教授、清水教授  
 下段左から右へ UHSからギフトを頂く野村教授、広島大学岩本助教、口腔外科宮崎亮医師、徳島大学宮崎彩医師



図2 UHS関係者との集合写真



図3 UHSでのWorkshop風景 1



図4 UHSでのWorkshop風景 2



図5 UHSでのWorkshop風景 3



図6 UHSでのWorkshop風景 4

### III ウエストライン小学校 歯科健診（11月27日）

実施場所：ウエストライン小学校、実施時間：8:00-10:30

参加者（合計 95名）

政府関係者（1名）：Dr. Hak SHITHAN (Ministry of Health)

実施校関係者（21名）：Mr. Lun Phearin (Academic Director of Westline School), School Principal of Westline School, ウエストライン school nurse 9名、ウエストライン小学校教員10名

健診対象児童（50名）：5年生・6年生2クラス

UHS参加者（13名）：Vice Dean, Dr. Lay Vuthy, Dr. Vorn Vutha, Dentist, Dr. Sin Sowatha, Dr. Suorn Monika, Dr. Kien Samphea, Dr. Sao Sopheapra, Dr. Uy Sophorn, Dr. Chan Borey, Dr. Muy Say（以上9名の歯科医師）、Ns. Pen Mom, Ns. Soth Sophaorn, Student ; Eng Soponsse lamuny, International relations ; Mrs. Chea Phalla

日本側参加者（10名）：清水裕子看護学教授、三宅実教授、宮寄亮歯科医師、岩本優子歯学部助教、宮寄彩歯科医師、野村美加教授、増子夕夏、楠川富子看護師；通訳；オン・リナ、タイ・ソックヘン

朝8時からウエストライン小学校で歯科健診の開会式が行われた。まず清水裕子プロジェクトマネージャーから、本日の歯科健診のデモンストレーションのアウトラインについて説明がなされた。その後、各関係者代表が各々の参加者の紹介を行った。宮寄亮医師から子どもたちに対し健診の手順についてガイダンスが行われた。子どもたちは健診の経験がなく、戸惑っている様子であったが、実施者から痛いことはしない、口を大きく開けるようにと伝え、ほとんどの児童が口を開けて、スムーズに健診を受けることができた。

ガイダンスの後、健診班は2班に分かれて歯科健診を行った。



小児歯科医師である岩本助教と宮崎彩歯科医師が実際に子供たちの歯を健診し、その記録を三宅教授と宮崎亮歯科医師がそれぞれ担当した。問診票の名前の記入はウエストライン小学校school nurseに依頼し、50名全ての児童の健診を終了した。



所見は以下の通りである。

ほとんどの児童が比較的良好な口腔内環境を有しているものの、一部の児童は永久歯に重度のう蝕を有しており、二極化を感じた。また治療されている歯も散見され、矯正装置を装着している児童も見受けられた。ウエストライン小学校はプノンペン市内の私立小学校であり、比較的裕福な家庭の児童が通っていることから、翌日行われたカンダラスタン郡小学校とは大きく違った健診結果となった。



図8 三宅教授 岩本医師による健診



図9 歯科健診1



図10 三宅・岩本健診チーム



図11 宮崎亮・彩医師による健診



図12 歯科健診2



図13 宮崎亮・彩健診チーム

休憩をはさみ、意見交換を行った。

UHS教員を含め小学校関係者とカンボジア現地スタッフは、日本の歯科医師のスピードの早さに驚くとともに歯科健診の必要性を改めて実感していた。現地参加者から虫歯はどうすればよいのか、治療費が高いがお金がない、医院がないという苦情に近い意見も多く出ていたが、三宅教授から虫歯の有無が重要ではなく虫歯があることの不利益、歯が大切であることを伝えることが重要であると説明された。岩本医師から小児のう蝕はブラッシングも大切だが、甘味食品の摂取などの食生活の管理が最も重要であるとの指摘があった。実際、健診終了後に売店で購入したと思われるお菓子を食べたりジュースを飲んでいる児童らを多く見かけ、そのような環境を変えていく必要性を感じた。

岩本助教が作成した小学校での虫歯予防冊子がSchool nurseにプレゼントされた。

最後に清水プロマネからSchool nurseの大切さについて説明された。ウエストライン小学校にはス

クールナースがおり、彼女たちに子どもたちの発育の面からだけでなく口腔保健の面からも食事教育をお願いした。乳歯のう蝕は永久歯列に悪影響を及ぼすだけでなく、時に重度の歯性感染症を引き起こすため乳歯のう蝕予防は極めて重要である。また多数歯の重度う蝕はネグレクトなどの発見の一助となることもある。歯科健診によってう蝕の早期発見だけでなく、子どもたち及び保護者にう蝕予防への関心を持ってもらうことができると思われる。次週に行われる身長と体重を記載した後、ウエストライン小学



図14 意見交換

校児童の分析を行いたい旨、説明された。UHS大学の教員には分析できる保健の先生を教育してほしいこと、そしてその分析できるSchool nurseが育つことを期待したいと説明された。ウエストラインAcademic directorから、提供した予防冊子を参考にカリキュラムを作っていくこと、また一日2回の歯磨き指導を行っていくなど、今後の具体的方策について見解が示された。最後に全員で集合写真を撮り終了した。

#### IV Outompou小学校 (No.11) 歯科健診 (11月28日)

**実施場所：**ウットンポー小学校校庭、**実施時間：**8:30-10:30

**参加者 (約105名)**

**政府関係者： (5名)** Ministry of Health, Vice director of Oral Health Office, Dr. Hak SHITHAN  
Ministry of Education, Youth and Sports, Chief of Bureau, Ms. Sar Horn

カンダール州Health Center Takmao Referral Hospital, Dr Yat Thoeurn医務局長, 副局長

カンダール州カンダルスタン郡教育事務所；サ・ブント氏

**実施校関係者 (約10名)：**(内訳；校長1名、副校長1名、カンダルスタン郡校長、副校長、学校保健担当教員数名)

**健診対象児童 (65名)：**5,6年生

**UHS参加者 (13名)：**11月27日に同じ

**日本側参加者 (10名)：**11月27日に同じ

ウットンポー小学校 (No.11) では、校庭中央の木陰に集まり、それぞれの代表が挨拶の後、各メンバー紹介を行った後、歯科健診のためのガイダンスを行った。その後、JICA草の根事業で建設した、手洗い場とトイレを視察し、集合写真の撮影を行った。教室は照明が無く暗いため、健診は校庭で行った。ウットンポー小学校児童5,6年生、65名の歯科健診が行われた。昨日と同じ2組の歯科グループ (三宅教授、岩本助教と宮壽亮歯科医師、彩歯科医師) に分かれて実施した。その後、引き続き意見交換を行った。ウットンポー小学校では特に虫歯はどうすればよいかという質問が集中した。行政関係者から、歯が悪いときには早く治療すること、お金の面で心配であれば国のHealth Centerなども利用するようアドバイスされた。



所見は以下の通りであった。

三宅教授：思ったより悪い状態ではない。今回得られたデータを集計して今後の政策支援のためのデータに活用していきたい。

岩本助教：乳歯の虫歯が多いこと、約20%の永久歯には虫歯が多い、抜歯しなくてはならないような虫歯がある児童もいた。

宮寄亮歯科医師：手洗いの習慣、一日2回歯を磨くことは小学校の指導にプログラム化されており、教員は既に理解していた。今回の意見交換では歯の悪い児童をどのように対応するかということが重点的に議論されていたように感じた。



図15 清水教授によるガイダンス



図16 教育省 Ms. Sar Horn氏による挨拶



図17 JICA草の根事業で建設した校内のジェンダーモデルトイレ前で集合写真



図18 歯科健診3



図19 岩本歯科医師 三宅教授班



図20 歯科健診 4



図21 宮寄亮歯科医師・彩歯科医師班

## V カンボジア健康科学大学（UHS）での学校内科健診Workshop（12月3日）

実施場所：UHS meeting room, 実施時間：9:00-12:00

参加者（19名）

UHS（4名）：学術実習室長医師学術実習室長, Dr. Ith Ponndara, 小児科Dr. Sim Kong, 医療技術学部看護学科Ns. Pen Mom, Ns. Soth Sopaorn, Ns. Hum Sereyvathana

ウエストライン小学校（7名）：法人本部スクールナースと小学校保健室に配置されている看護師

日本側（4名）：清水草の根事業プロジェクトマネージャー、峠内科医師

スタッフ（3名）：増子夕夏香川大学医学部事務現地調整員、ウドンハウス楠川看護師、タイ・ソックヘン現地業務補助員（翻訳・通訳）

CAJI通訳（1名）：オン・リナ

内科健診Workshop プログラム

通訳：オン・リナ

開会の挨拶

清水 裕子 教授  
Prof. Seng Sopheap 副学長

お土産交換・集合写真

清水 裕子 教授

本事業説明とこれまでの成果

峠 哲男 教授

日本の学校の健康診断技法について

清水 裕子 教授

日本の学校保健室について

ウエストライン小学校看護師

ウエストライン小学校の実情について

閉会の挨拶

清水 裕子 教授

清水プロマネからの挨拶の後、Prof. Seng Sopheap 副学長から挨拶があった。学長の代理で対応する旨のご挨拶と、香川大学からの企画と渡航者への労いと謝意、ウエストライン小学校から8名の看護師の参加について激励があった。既に UHS と香川大学とのMOUが締結されており、今後の学術交流と連携についての期待も語られた。その後ギフト交換を行った。

まず、清水プロマネからJICA草の根事業で行っている、カンダルスタン郡小学校での衛生教育改



善のための学校保健室体制づくりの健康診断に関する PDM が紹介された。その上で、JICA 草の根経費が医師、看護師の医療技術移転を担保しないことから、新たに医療技術等国際展開推進事業（以下、医療技術事業）を獲得し実施することが説明された。

これまでの成果として、カンダルスタン郡の学校保健室に入室した児童の2018年11月から2018年3月までの症状のまとめを説明した。腹痛や、頭痛、発熱、けがのいずれも3月が多かった。このことは最も気温が暑い季節のためではないかとの示唆を受けた。

次に、峠教授から、学校健康診断で実施する項目について、実施方法、実施する身体部位について説明があった。加えて峠教授の専門である神経学的診察法についても説明があった。最後にカンダルスタン郡教員の来日研修についてスライドを使用して紹介が行われた。その後峠教授への質疑応答が行われた。

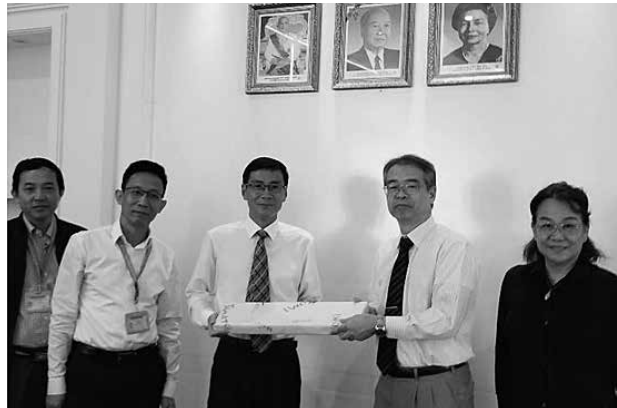


図22 左から小児科 Dr. Sim Kong、教育研修室長 Dr. Ith Ponndara、副学長 Prof. Seng SOPHEAP、峠教授、清水プロジェクトマネージャー



図23 医学部正面で集合写真



図24 UHS会議室でのWorkshop



図25 峠教授によるセミナー

清水プロマネにより愛媛県八幡浜市日土町日土小学校の学校内科健診の紹介があった。この小学校はかつて、500名の児童数であったが現在は56名であり、中山間地区に位置する日本の地方の典型的な小学校といえる。その小学校での児童用保健室のしつらえや保健情報管理の方法、養護教諭の業務とともに学校健康診断における役割も説明した。他に、校内全体の写真から、読書環境やトイレや清掃用具、廊下や外部へのアクセス、採光や安全についての工夫などが説明され、心身の健康を保持する学内環境の紹介があった。

最後に、ウエストライン小学校グループの学校看護師によるウエストラインの実情について説明が行われた。ウエストラインでは、医師との健診契約は行っていない。小児科病院と契約をしているの

で病気で受診すれば、ディスカウントで診療をうけることができる。また、ウエストラインは、「保健だより」を年に3回発行しているとの説明があった。その後、質疑応答が行われWorkshopは終了した。

## VI ウエストライン小学校 内科健診（12月4日）

実施場所：ウエストライン小学校、実施時間：9:00-12:00

参加者（合計71名）

UHS（5名）：学術実習室長 Dr. Ith Ponndara、小児科 Dr. Sim Kong、医療技術学部看護学科Ns. Hun Sereyvathana, Ns. Pen Mom, Ns. Soth Sophaorn

ウエストライン小学校（9名）：Mr. Lun Phearin 学術部長、ウエストライン小学校校長、法人本部スクールナースと小学校保健室に配置されている7名の看護師

健診対象児童（50名）：5年生・6年生2クラス（11月27日と同じ児童）

日本側（7名）：清水草の根事業プロジェクトマネージャー、峠内科医師、サンインターナショナル野々村内科医師、スタッフ：増子夕夏香川大学医学部事務現地調整員、ウドンハウス楠川看護師、タイ・ソックヘン現地業務補助員（翻訳・通訳）、CAJI通訳：オン・リナ

清水プロマネから、スケジュールと実施方法のガイダンスが行われた後、各代表からスタッフの紹介が行われた。その度実施方法に関するガイダンスが行われた。内科健診は野々村内科医師も同行して行った。野々村医師は現地で3年間、民間クリニックでの診療を行っている香川大学医学部卒業生である。

1. 予診コーナー：保健室看護師が担当し、児童の氏名（英語名）と血圧測定を依頼した
2. 尿検査：ウエストライン小学校の保健室看護師が児童の採尿をサポートし、医療技術学部看護学科教員が尿検査を担当した。
3. 保健室での診察：UHS教員は、診察をクメール語でサポートした。峠教授及び野々村医師は、内科健診を実施した。

所見は以下の通りである。

峠教授：殆どの子供が健康であったが、幾人かがのどが赤く、頸部リンパ節が腫脹していた。扁桃腺肥大、脊椎の異常（脊椎側弯症）1名があった。1名の足部腱反射に異常のある児童があった。下肢痙性麻痺などが疑われるが、現在は症状もなく経過観察でよいと考える。尿検査の結果、何人かの児童に異常がみられた。女兒の潜血反応は月経の可能性がある。尿蛋白は、数名の児童が異常であった。できれば再検した方がよいと考える。尿蛋白（+）の児童の中には、微熱が継続している児童があった。

野々村医師：殆どの児童には問題ない。清潔は保たれている。口の中の虫歯が多い。肌の乾燥や皮膚の湿疹がみられる児童がいるため、ケアが必要である。

意見交換では、UHS医師から内科健診の手法がとてもよいとの感想があった。BMI（Body Mass Index）を算出しているのかといった具体的な方策についても質問が行われた。UHS看護師も初めて



視察したであろう健診に関心を持ち、今度の看護師の役割として行きたいと意見がなされた。

清水プロマネから月経用のナプキンの使用について問い合わせたところ、学校看護師から、プノンペンでは児童はナプキンを使用しており、トイレにナプキンボックスも設置されているとの回答があった。地方では必ずしも設置されていないところもある。設置されていないところでは、ゴミ箱に捨てられている、との回答であった。最後に明日の間診のための改善点の打ち合わせを行い終了した。



図26 ウエストライン小学校



図27 健診実施専門家の挨拶（左からDr.野々村、通訳オン・リナ氏、Dr. 峠、清水プロマネ、ウエストライン Mr. Lun Pherin 学術部長、UHS 教育実習室長 Dr. Ith Ponndara、USH 小児科 Dr. Sim Kong、UHS 看護学科教員 Mr. Hun Sereyvathana、Mrs. Pen Mom、Mrs. Soth Sophaorn）



図28 保健室看護師による予診1



図29 尿検査



図30 尿検査を待つ児童



図31 保健室での内科健診



図32 保健室が一つのためダブルでの健診



図33 尿検査を待つ児童



図34 意見交換



## VII Cheung Keub Primary School 内科健診（12月5日）

実施場所：チューンカイブ小学校校庭、実施時間：8:00-10:30

参加者（101名）

政府関係者（2名）：Ms. Sar Horn (Ministry of Education, Youth and Sports, Chief of Bureau), 州医務局長 Dr. Yat Thoeurn (カンダール州 Health Center Takmao Referral Hospital), 教育省カンダール州教育局副部長

UHS（5名）：12月4日に同じ

カンダルスタン郡小学校関係者（22名）：No.8 Cheung Keub primary school 校長、No.1, No.4, No.5, No.11, No.23 小学校校長、カンダルスタン郡小学校保健室担当教員 16名

健診対象児童（65名）：5, 6年生 11月28日に同じ

日本側（6名）：12月4日に同じ、通訳：Ty Sok（観光省）

清水プロマネから、チューンカイブ小学校教室において本日の実施内容のガイダンスが行われた。各機関代表者からの挨拶の後、峠教授から、12月3日にUHSで講義を行った内容の概要が説明された。特に初めて聴講する16名のカンダルスタン郡の教員と6名の校長に向けて説明を行った。その後、清水プロマネから、本日の健康診断の実施手順の説明があった。

別教室で65名の児童には担任から尿の採取について説明を行うことが依頼され、同時に担任には、健康診断表に児童の氏名、生年月日の記入を依頼した。採尿現場のトイレでは、学校校長や現地の教員に安全確保を依頼した。また、身長や体重測定には保健室担当教員の協力を依頼した。UHS医師には、峠教授、野々村医師の内科診察の前にインテーク面接を行い、血圧測定を依頼した。尿検査は、ウエストライン小学校と同様、UHS看護学科教員3名に依頼した。

内科健診では、峠教授、野々村医師が担当し、保健室区域としてベッドが準備されているコーナーとスクリーンで仕切られた区域で実施した。UHS医師や内科健診の様子をカンダール州医務局長は観察を行っていた。最後に残った内科診察の終了をまって、結果講評が峠教授と野々村医師から行われた。



図35 挨拶と医療行政官へのガイダンス



図36 前週の歯科健診結果とガイダンス



図37 児童への採尿ガイダンス1



図38 児童への採尿ガイダンス2



図39 UHS医師による血圧測定



図40 内科健診を待つ児童



図41 職員による身長・体重測定



図42 内科健診 2



図43 内科健診 3

質疑応答では、現在、糖尿病で内服を行っているという教員から、自分の尿検査を行ったが尿糖が出なかったとの意見があり、内服効果の説明を行った。また、21名のカンダルスタン郡から参加した保健室担当教員らは、自らの尿検査を希望し、UHS 看護教員により結果をうけとっていた。その結果、異常者はなかった。このことから、児童の健康診断の学びを行いながら、教員自らの健康に関心を深めることになったといえる。自らの健康への関心が児童の健康管理に向かうことを期待したい。カンダール州医務局長は、UHSボンダラ医師のかつての上司であったことを証し、児童への健康診断実施には時間がかかることと思うが、良いことなので、将来的には実施できるようになることを期待したいと閉会の言葉を述べられた。

所見は以下の通りである。

峠教授：大きな異常所見はなかったものの、咽頭および扁桃腺に炎症がある生徒、頸部リンパ節の腫脹のある生徒が散見した。1 - 2名の生徒は体重が軽く栄養が十分でないと考えられた。また、背骨のゆがみの可能性がある児童がいた。尿検査における再検査を要する児童が約1割みられたため、再検査が求められる。



図44 健診後の所見発表



図45 健診後の意見交換

最後に現地で3年間、民間クリニックでの診療を行っている香川大学医学部卒業生、野々村秀明医師から次の通りコメントを頂いた。

今回、カンボジアの2ヶ所の小学校（ウエストラインとカンダルスタン）で健康チェックを行ったため、要点を述べたい。私はカンボジア在住3年で、現地の友人も多い。今回の2ヶ所の学校はカンボジアの貧富の格差を如実に反映しているように思えた。一般に、ウエストラインのようなプノンペン市内のインターナショナルスクールは教育熱心で比較的裕福な家庭の子どもが多い。そして治安面

から通学には送迎を要し、室内で過保護になりがちと言われている。そのため健診の際、身なりは清潔に整っていたものの、メガネ・肥満の割合が多いように思えた。日本の子ども達が抱える健康問題と似た傾向ではないだろうか。一方、カンダルスタンはプノンペン郊外にあり、典型的な田舎の簡素な学校と言える。子ども達の身だしなみや健康状態に問題はないが、肌は日焼けして乾燥し、やや痩せている印象であった。カンボジアの子どもと言ってもピンキリで



図46 教室の前で記念撮影

ある。データの平均値の解釈には注意を要する。学校に通えないような貧困層の子ども達の健康状態は、今回の訪問では明らかになっていない。しかもカンボジアは保護者が出生年月日の届け出を意図的に遅らせて、入学時期を数年ズラすことも珍しくないと聞く（最近は厳格に管理されている）。したがって、年齢による発育差には慎重な評価が必要であり、日本以上の社会的格差が広がるカンボジアでは、十把一絡げの決め付けは判断を見誤る可能性がある。

## VIII 最後に

プノンペン市内のウエストライン小学校とカンダルスタン郡小学校の典型的な田舎の小学校、両校の健康診断結果を集計することで現在のカンボジアの現状・問題点が見えてくるだろう。まだ田舎の保護者は子供の出生年月日を意図的に遅らせることもあるので年齢の発育差によるデータの解釈は慎重に行う必要はあるが、本調査結果は、今後のカンボジアの学校保健政策への提言につながる有意な結果を得られたと考える。

## IX 謝辞

本事業は、2017-2020年に採択されたJICA草の根技術協力事業、2019年度医療技術等国際展開支援事業の支援を受けて実施したものでここに深く謝意を表します。また、カンボジア、ウエストライン小学校とカンダルスタン郡小学校児童の歯科健診・内科健診のためにご尽力いただきましたカンボジア政府関係者、教育関係者ならびに医療関係者の皆様に、深く感謝致します。最後に児童のご両親様のご理解・同意なしにはなしえなかったものと思います。心より感謝致します。